

大阪狭山市水循環協議会（第6回） 議事録

開催日時	令和5年3月9日（木） 10時00分～11時30分
開催場所	大阪狭山市文化会館 SAYAKA ホール大会議室
出席者	遠藤崇浩委員（会長）、上田萌子委員（副会長）、上田和徳委員、上田幸男委員、山村歳幸委員、菊屋英一委員、西井兼一委員、松原一弘委員、松川元英委員、塩屋泰一委員、宍戸英明委員、矢幅保宏委員、栗林禎輔委員
事務局	水資源部長、水資源部治水対策グループ課長、水資源部治水対策グループ参事、水資源部治水対策グループ主事
傍聴者	0名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 大阪狭山市水循環計画について 3 次年度以降の計画の進め方（案） 4 意見交換 5 閉会
配布資料 一覧	<p>資料1 大阪狭山市水循環協議会（第6回）出席者名簿</p> <p>資料2 大阪狭山市水循環協議会（第6回）座席表</p> <p>資料3 大阪狭山市水循環協議会（第6回）説明資料（パワーポイント）</p> <p>資料4-1 大阪狭山市水循環計画 -ビジュアル版-（案）</p> <p>資料4-2 大阪狭山市水循環計画（案）</p> <p>資料4-3 大阪狭山市水循環計画 -リーフレット版-（案）</p> <p>資料5 施策カルテ（案）、次年度以降の計画の進め方（案）</p> <p>資料6 大阪狭山市水循環協議会（第5回）議事録</p>

議事の経過	
発言者	発言の内容
事務局	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 ・委員 14 名中 13 名が出席しており、審議会が成立していることを確認。 <p>2. 大阪狭山市水循環計画について</p> <p>3. 次年度以降の計画の進め方（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料説明
会長	<p>4. 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪狭山市水循環計画（案）、次年度以降の計画の進め方（案）に関する意見があれば、お願いします。
委員	<p>【大阪狭山市水循環計画（案）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントで農業用水路に関する意見があったが、本計画では総論を記載しているため、回答としては問題ないと考えられる。ただし、今後どのように使命を果たしていくのか、具体性が見えにくい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・水循環計画に関するパブリックコメントであるため、具体的な事項は、今後議論していく内容と認識している。具体的な個別施策については、各所管部署で対応していく方針である。水路、雨水管等については、ゲリラ豪雨に完全に対応した施設・設備であるとは認識しておらず、施設管理者との調整の上で適切な堰板操作等を実施して対応している。今後、グリーンインフラ等を活用した治水施策も検討していく必要があると思われる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山池等のため池を有効活用した施策を今後推進していただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体では、市民協働広報アプリなどを活用している例がある。市民が公共施設の不具合を知らせることや共有することができる機能をもつアプリケーションである。ため池などの水資源についても、そういったアプリが活用できるかと考えられる。 <p>広報の場合は、自治体からの一方的な情報提供となるため、市民の声を拾うために有効な手法を検討いただきたい。</p>

	【次年度以降の計画の進め方（案）】
委員	・説明資料 11 ページの協議会参画団体は、具体的にどこを指しているのか。
事務局	・現在の協議会委員の皆様の各所属団体がベースだと考えているが、今後参画いただいている委員の所属団体の担当者と調整を進めていく必要があると認識している。
委員	・行政の役割を実施していくのは当然であるが、水循環計画では市民の声をうまく拾うことが重要である。行政のみでなく、市民活動を踏まえて、市民活動がうまく推進できるようなスキームを検討していただきたい。
事務局	・前回の協議会までにご指摘いただいていたように、関連市民団体や事業者等に参画いただけるよう、登録制度等、市民協働・公民連携を行って、市民の声をうまく拾える体制構築を次年度以降検討していきたい。
会長	・水循環計画では、そうした市民活動を推進するためのプラットフォームを作れるものと考えられるので、有効な推進体制を考えていただきたい。
委員	・計画策定後、各団体の実施している役割が現状で問題ないのか不明確であるため、各団体の立ち位置がわからない。
委員	・3つの柱に基づいて施策を行っていくことは理解できるが、市民の方が具体的にどういったことを実施すればよいか不明確である。そのため、今後の学習会などで市民の方の役割をお伝えしていくことが重要である。
会長	・施策カルテに「マッチング要望」欄があるが、どういった狙いで設定されているのか。
事務局	・各団体ですでにマッチングしている実態があれば教えていただきたいと考えており、今後、マッチングを意識しつつ情報共有を進めていくことで、取組を次に進めるための可能性を協議会で確認できればと考え、施策カルテに記入欄を設けた。
会長	・連携体制を組んだ場合は、補助金を活用可能となるような仕組みを作ると活性化すると思われる。そのような仕組みを考えていただきたい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業主体がどこであるかが重要である。施策実施による利害関係の調整を協議会で議論していくことになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な場合は、調整や連携に関する議論をすることになると思われる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチングする際に、各団体のバランスによって調整が難しくなることが想定される。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なマッチング事例が挙がってきた際に、適宜調整が必要となると考えられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後計画を推進していくためには、分科会などの設置が重要と考えられる。水に関する苦情・改善事項などは各地区会などの意見を吸い上げて協議会の場で共有することが考えられる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会・地区会の意見を吸い上げるようなチャンネル、機会はあるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・地区会で関連した意見交換を行う場など確立されたものは現状ないため、今後、自治会・地区会でも水に関する議論が必要と考えられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 4-2 59 ページの体制にあるとおり、自治会から市民へ情報を共有するやり方となるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・地区会から市民へ情報を共有いただき、市民の声を拾っていただけの的是ありがたいが、市側が足を運んで意見を収集・共有することも必要。あらゆる手段・手法を用いて市民への情報共有・収集を図りたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を一括りにしているが、高齢化などで市民の組織団体が減少してきている。計画は行政主導で実施していくものと市民が誤解していることも考えられるため、市民意識を変えていかなければ、本計画の推進につながらないと思われる。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の委員の構成、メンバーを変えていくやり方もあり、さまざまな人が関与することで意識も少しずつ変わっていくと思われる。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体では、自治会がなく、市民意見を収集、共有することができない場合、現時点で活動している防災、清掃、その他活動団体に参加することで、遠いつながりではあるが、水循環に関わっているという市民意識を醸成しているといった事例もある。参考にするとよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙及び資料 4-1 の 5 ページ、6 ページのキャッチコピーのロゴタイプ等のデザインが適切でない。修正を行って、市民に伝わるような表現とすべき。また、ハイフンを用いているが、不要と思われる。 資料 4-2 の 32 ページのデザインは目立つためよいと思われるのが、「水」を大きくする等、もう少し目立つようにすべき。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各ロゴのデザインを再考し、市民にキャッチコピーが伝わりやすいように修正する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット版（資料 4-3）は 2 案あるが、どちらかを選択するか、この場で決定するのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット版の表紙と 2 ページ目以後とのデザインのギャップが大きいに思える。再考いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き下段及び裏表紙発行元等記載欄の色帯の色を合わせるなどし、ページ間のデザインに統一性が感じられるように修正する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチコピーのハイフンは不要と思われる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチコピーの両側に「～」を現状配置しているが、必要か不要か。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・不要と思われる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙のイラストにラバーダックを用いているため、表紙下端に発行元の説明等が必要となっているが、表紙に記載すべき情報としては少しそぐわないと思われるので、ラバーダックを描かないという選択はないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の説明文を裏表紙に記載する等のデザインの配慮を行うことで対応可能と思われる。ラバーダックのイラストについては、本市の水循環の未来の姿を象徴する表現として掲載しているため、このままとしたい。

会長	・表紙のデザインは事務局に一任することで異議はないか。
委員	・異議なし。
委員	・施策カルテに各事業の実施主体の記載がないため、記載した方が良いと思われる。
事務局	・各事業の実施主体の記載は必要と考えているが、現状では各団体担当者との調整が完了していないため、記載を控えている。今後、調整を図り記載していく。
委員	・実施主体の記載は重要と思うが、実際、狭山池ダムの降雨前の事前放流に関して、関係団体で議論した経緯などから、実施主体を明確に決めることは簡単ではないと思われる。とくに主体間で意見が対立する場合等は、実施主体の決定はとくに困難となる。
会長	・実施主体を明確化できない場合は、無理に記載する必要はなく、記載できるものから記載すればよいと考えられる。
委員	・団体の了承は必要であるが、実施主体の記載は、関連団体を併記すれば良いと思う。
会長	・関連団体の記載は、各団体の了承を得られたものから記載していく方針でよいのではないか。
委員	・施策カルテの中で施策の数値目標を掲げられるものがあれば、記載しても良いのではないか。すべてに数値目標を記載すると管理要素が強くなるため、望ましくないが、例えば市民の満足度等をアンケートで把握して数値的に達成度合いを把握する手法も有効かと思われる。また、8つの施策や3つの柱に関する認知度などをアンケートで収集することも考えられる。加えて、水に関する意見数、SNSのフォロワー数をモニタリングする等も有効と思う。
会長	・本日より予定していた議事等はこれで終わりとなりました。
5. 閉会 (以上)	

